

都井岬にバイオトイレ

排水出さない循環型



串間市都井岬の小松ヶ丘広場に設置されたバイオトイレ

串間市を代表する観光地の都井岬に、災害時にも利用できる「バイオトイレ」が試験的に設置された。11月末まで約2カ月間の実証実験を行い、観光客や串間市民ら利用者の声を集める。同実験は九州では2例目で、本県では初めて。

同トイレは、NPO法人グラウンドワーク三島(静岡県)が2001年、し尿問題を抱えていた富士山に設置していたデモ機。9月21日までは、鹿児島市で実証実験を行うなど約20年間現役として稼働している。し尿に含まれるアンモニアや有機物を微生物や杉チップが水

災害時にも利用可

県内初実証実験

と窒素ガスなどに分解。し尿の処理水を水洗トイレの洗浄水として使用しており、排水を出さない循環型となっている。今回のデモ機は、アンモニアなどの処理部分とトイレが一体型だが、既存のトイレに処理部分だけを備えつけることもできる。

普及に取り組む南国殖産(鹿児島市)が、串間市に実証実験を打診。同市は、防災拠点施設整備を考えており、同トイレの有効性などを見極めるため承諾し、トイレがない同岬小松ヶ丘広場を設置場所に選んだ。

9月24日には同広場で、同法人の渡辺豊博専務理事が、同市の福添忠義副市長らに概要を説明。「杉チップは約20年交換しておらず、トイレ独特の臭いがないことが最大の特徴」と紹介した。処理能力も高く1日160回利用できる、災害時に断水しても利用できる点などを強調した。

福添副市長は「南海トラフ巨大地震の発生が想定されており、災害時にはトイレの問題が出てくる。効果やコストなどいろいろな面で検討していきたい」と話していた。

★「ブレミア」にも掲載 (那須友紀)